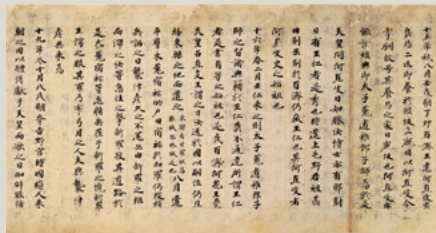


日本書紀 卷第十(残卷)



国宝
紙本墨書
縦28.0cm 長493.1cm
平安時代(9世紀)
当館

『日本書紀』は、中国で歴代王朝ごとにつくられていた正史に範をとり、わが国で最初に編纂された国史で、神代から神武天皇を経て持統天皇(西暦697年退位)の時代までの出来事を漢文で記す。その編纂は天武天皇の時代(在位672～686)に始まり、約40年にわたって断続的に続けられ、養老4年(720)5月に完成して「紀三十巻」と「系図一卷」が奏上された(「系図一卷」は現存しない)。

『日本書紀』の原本は今に伝わらないが、奈良時代の完成当初から歴史書として重視され、平安時代にはしばしば講義が実施されたため、平安時代に遡る写本が少なからず現存する。中でも奈良国立博物館が所蔵する本品は、書風等から9世紀頃の書写と推定される現存最古の写本で、全30巻からなる『日本書紀』のうち、巻第十の大部分、すなわち応神天皇2年3月庚戌条の途中から同41年2月是月条の途中までを収める。その中には、天皇が皇子に書物を読み習わせるため、百濟から王仁(『古事記』では「和迩吉師」)を招いて師としたという著名な記事も含まれている。

写本の文字は端麗な楷書で、淡墨の界線によって作られた各行に、1行あたりほぼ一定して17字を収める。文中には訓点や校合などの後世の書き入れが一切なく、書写当時の姿をそのまま伝えている。

なお、本品の紙背は弘法大師空海の詩文集『性霊集』の平安時代後期の写本で、序の途中から巻第二の途中までを収める。

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて
12月10日から平成29年1月9日まで展示

展示品の みどころ

ほっ け せつ そう ず 法華説相図

国宝
銅造
縦83.3cm 横74.2cm
飛鳥時代～奈良時代(7世紀～8世紀)
奈良 長谷寺



なら仏像館の名品展「珠玉の仏たち」に陳列される仏像は、その半数近くが国宝・重要文化財指定である。本品は、その数ある指定品のうち国宝に指定される一品である。

奈良県桜井市の長谷寺に創建期から伝えられたこの銅製のレリーフ板には「釈迦が霊鷲山で説法していると、地中から宝塔が涌出し、塔内の多宝仏が釈迦を招き入れ二仏が並坐する」という「法華経」「見宝塔品」の場面が表される。『法華経』の説かれる場所で行くこの奇瑞は、同経の功德を視覚的に表した主題として、中国では5世紀～6世紀にかけて盛んに制作されているが、日本での作例は多くなく、日本における法華経信仰の造像として貴重な一例といえる。

本品の下部に刻まれた刻銘には「降婁漆菴」(戊辰七月)の上旬、僧道明が「飛鳥清御原大宮治天下天皇」のために制作したことが記される。制作年代や制作意図が詳しく記され、歴史的に基準となる国宝なのだが、実はこの銘文こそが本品を謎だらけの国宝にしているのである。

「降婁」とはいつか。表されている仏像が童子を思わせるふくよかな体形で、銘文が欧陽詢(557～641：中国唐代の書家)風の書体であることから、これを飛鳥時代後期(白鳳期)の、686年または698年とする説と、銘文中の語句が、白村江の戦い以降、途絶していた遣唐使が帰国する704年以降にならないと使用されないとして、奈良時代、710年以降の作とする説が出されている。また、銘文中の天皇が誰のことかも、解釈によって一致しない。日本上代の彫刻・工芸・書跡を代表する名品でありながら定説を見ないという点で、7世紀から8世紀にかけての白鳳という時代の謎を端的に示す一品とも言えるだろう。今現在、本品はなら仏像館で露出展示されている。この機会に、この白鳳の謎に挑んでみてはいかがだろうか。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆なら仏像館 名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(10月～12月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・金・土曜日は午後8時まで
・正倉院展会期中(10月22日～11月7日)
月～木曜日：午前9時～午後6時
金・土・日曜日・祝日：午前9時～午後8時
※いずれも、入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日
・ただし、10月10日(祝、11月7日(月)は開館し、
10月11日(火)は休館
※正倉院展の会期中は無休

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無 料
団 体	410円	210円	無 料

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※団体は20名以上です。
※11月19日(土、20日(日)(関西文化の日)は、無料観覧日となります。

第68回 正倉院展

	一 般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人(当日)	1,100円	700円	400円	—
前売・団体	1,000円	600円	300円	1,100円
オータムレイト	800円	500円	200円	—

※親子ペア観覧券は、一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。前売りのみで、販売は主要プレイガイド、コンビニエンスストア(一部)に限ります。

※団体は20名以上です。

※オータムレイトチケットは、月～木曜日の午後4時30分以降、金・土・日曜日・祝日の午後5時30分以降に使用できる当日券です。当館当日券売場でのみ、月～木曜日は午後3時30分より、金・土・日曜日・祝日は午後4時30分より販売をします。購入者には記念品を進呈します。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。